

地域医療の拠点たる病院の 存続と発展のため

滋賀県東近江市 能登川病院をよくする会

能登川病院をよくする会事務局長 菊川弘

病院の存続に住民が立ち上がる

昭和19年から滋賀県神崎郡能登川町（現在は東近江市能登川支所管内、人口約2万3500人）の地区住民の医療を担ってきた公立の能登川病院（東近江市立）は、他地区と同じく、平成18年に卒業臨床研修制度の必修化が始まって、大響を受け、地方病院が医師不足になるという現象に見舞われました。

そのため、能登川病院も患者は遠隔の設備の整った、医師のいる病院に行くよ

病院となり衰退の一途を辿りました。

そこでは必然的に経営悪化の負のスパイラルが生じ、市の財政にも影響を与えることになり、市の検討委員会が設置され、その存廃が議論されることとなりました。

これに危機感を持った地元有志が平成25年11月に正式に本会を立ち上げ、医療関係でない地域住民の立場でできる病院の存続を願う活動（具体的には、存続請願、病院周辺の環境維持、入院患者との会話等々）を開始しました。

これに先立つ、平成25年7月には、地域医療の専門家である、城西大学経営学部教授の伊関友伸氏を招き、「病院フォーラム」を開催し、地域住民の意識の向

上とさらなる活動の指針を定めました。

伊関教授には、「地域医療を守るのは皆さんの努力次第です」をテーマに講演いただき、「地域に一つの病院を存続させるため、単なる行政請願だけでなく、自ら行動を起こし、住民の総意を示し、住民を覚醒し、自覚を促し、能登川地区で医療難民を生じることのないように願うことである」との提示を受けました。

病院存続請願ハガキを提出

これを契機として、普段の活動に加え、細やかであるが医師の着任時の歓迎式や、離任の際の感謝を込めた歓送式等のイベントも催しました。



さらに、病院の情報を広く住民に開示し現況を伝えるため、(一社)能登川地区まちづくり協議会が隔月で発行している、まちの情報紙(発行部数8500部)に病院関連記事を掲載する一方、別刷りの挟み込み(A4サイズ、表はニュース、裏は外来診療表で担当医師のシフトを表示)を作成し、「能登川病院をよくする会ニュース」として広報しました。これは現在も継続している広報面での活動です。

フォーラムで喚起されたなかで最も象徴的な活動は、平成26年6月18日、市長へ請願ハガキ約300通を提出したことです。地区全世帯(約8300)にハ

ガキを配り、病院存続を思い願う文章を記入してもらい集約し、当会川南会長と菊川事務局長自らが東近江市長の小椋正清氏に提出することによって、住民の願いの束を届けたことでした。このことは、現時点から鑑みるに、存続に繋がる大きな分岐点であったと思われま

当会発足の前後には、病院存続に関わるフォーラムを幾度となく開催しました。

病院存続の決定と会の活動

その結果、念願の存続が決定し、能登川病院は平成27年4月から指定管理者と

して「医療法人社団昂会」の手に委ねられ、2年余りが経過しました。冒頭に記載した医師のことも、過去最盛期の常勤14名に準ずる人数になり、業績もそれに伴う設備も短期間でありながら右肩上がりの素晴らしい状況になり、地域の信頼できる病院として支持され運営されています。

しかしながら、当会はそれに甘んじることなく会員は不断の活動を行っております。

美化チームと会話チームを構成

活動のポイントに移りますが、主たるものは以下の2点です。

美化チームは、病院周辺の樹木の剪定や除草、季節の花苗等の植栽、ガラス清掃等を月3回定期的に行っております。(今冬の豪雪時には、アクセス確保のため、駐車場の除雪作業も行いました)

会話チームは、入院患者さんの話し相手となり、平日午前中の2時間を14名の



病院フォーラム(やわらぎホール)平成25年7月



能登川病院をよくする会発足式(能登川コミュニティセンター)平成25年11月



能登川病院をよくする会美化チーム活動模様(東近江市立能登川病院玄関前ロータリーでの花苗植替え)平成27年6月

メンバーで2名シフトとして活動し、入院患者さんの悩みや憂いの聞き役や相談役となっております。

当会の会長と、事務局長は、月1回、日を定めて病院事務局と会議を開き、意見や情報交換しながら病院への要望を利用者目線で申し述べる機会を作っております。

お蔭で、私たち地域住民が蒔いた小さな種が、相応の成果となって花開き、病院の存廃懸念から、今では、最盛期並みの常勤医師体制のもとでの診療科目の増加、受診患者数や入院患者数の増加、救急搬送の増加、入院ベッド数の充足、最新の医療機器導入等々が叶えられ、地域医療を支える全国モデルになるのではないかと自負しております。

当会は先述の如く、これに甘んじることなく不断の活動の継続を行ってまいります。現在の悩みは、会員の高齢化による新陳代謝の必要性です。

次世代の方々に、活動への理解と支援を呼びかけてまいりたいと考えております。

地域医療は、決して病院だけのものではなく、さりとて住民のエゴでもなく、行政を含め三方が協働連携して成り立つ

ものであり、今後とも発足当時の理念に基づき、地道に活動していきたいと考えております。

課題とその対策について

当会が直面する喫緊の課題とその対策を考察し、ともに考えていただきたいと思います。病院の存廃が云々された当会設立時の会員数は45名、その後、活動に共感して会員は徐々に増加し、平成27年4月の病院指定管理者制開始時点には90名を数えました。



能登川病院をよくなる会会話チーム活動模様（能登川病院2階リハビリ室での入院患者さんとの会話模様）
平成29年2月

指定管理者の運営努力が実り、常勤医師やスタッフ等の充実に伴い患者増と、駐車場や待合コーナーの狭隘等の嬉しいながらも、負の側面も生じてきました。しかしながら、私たちが最も危惧することは、現状で満足している地区住民の安心感です。20年間にわたる指定管理の基本協定書において、住民の協力が不可欠の位置づけになっております。地域が病院をしっかりと護る意識なくしては、病院の安定経営の維持は困難です。

広報紙を通じての入会の呼びかけに関しては限定効果のため、地区の53自治会に出向き声高に呼びかけること、または自治会を巻き込んだでの活動を行うことを考えています。

一方、行政に対しても住民意識の向上について、効果的な施策を講じるように要請することも視野に入れております。

全国的に公立病院は医師の偏在も含め、経営的に困難に直面しているようです。

地域医療を護るのはその地区の住民です。大いなる関心と行動の発露なくしての発展はありません。

私たちの小さな活動事例が、全国的な展開に繋がるようなら幸いです。

市長宛 ～住民からの気持ちを表す文書～

自治会名	世帯数	入会	ハガキ	自治会名	世帯数	入会	ハガキ	自治会名	世帯数	入会	ハガキ
旭ヶ丘	92	0	0	栗見出在家	92	0	10	能登川栄	320	1	3
阿弥陀堂	50	1	2	桜ヶ丘	120	0	2	パークシティ	98	0	1
安楽寺	42	0	0	佐生	150	0	8	早刈	42	0	0
イースロード	70	0	0	佐野	710	0	5	林	360	0	0
泉台	210	0	12	志賀田	65	0	1	東佐生	157	0	0
伊庭	255	0	7	新宮東	63	0	9	東佐野	93	1	7
今	310	0	12	新宮西	52	0	0	福堂	175	1	14
小川	170	0	50	神郷	89	0	0	堀切	170	0	2
奥田社宅	13	0	0	神郷団地	60	0	0	本町	316	0	0
尾巻台	60	0	3	新種	240	0	0	緑が丘	130	0	1
乙女浜	150	1	5	膝光寺	482	0	2	南佐野	77	0	0
垣見	180	0	6	大地	118	0	0	南須田	40	0	4
川南	73	0	6	大徳寺	99	0	0	山路	570	2	5
北須田	42	0	3	大中	73	0	37	若葉	40	0	0
きぬがさ城東	32	1	3	高岸台	53	0	12	レホッテテ		0	0
きぬがさ中央	14	0	9	長勝寺	95	0	18				
きぬがさ中洲	41	0	3	ブーメラン	198	0	1				
栗見新田	110	0	0	能登川	197	0	3	合計			272
	2,110	3	126		3,076	0	109		2,608	13	37
					7,794	16	272		3.49%		

○「市長宛～住民からの気持ちを表す文書～」

平成27年3月、病院存続の窮状に対し、地域住民（約8500世帯）の病院に寄せる熱い思いを自書してもらおうと、「能登川病院への住民からの気持ちを表す文書」と記したハガキ版を折り込み説明書面を、自治会経由で全世帯に送付したのです。

折り返し届いた思いのハガキを小浜正清東近江市長に手渡したことは、存続決定の判断の大きな原因となりました。

○「能登川病院をよくする会活動実績」(次頁)

平成27年の活動実績をまとめたものです。

当時の院長から、「入院患者さんは、ベッドで寝てばかりでは回復が遅れる。リハビリ室で身体を動かし、会話をすることも必要です」

一方、広大な敷地に花壇と樹木を有しているが、整備に充てる費用がない。いずれも、「能登川病院をよくする会」で助けて欲しい等々の要望が出されました。

こうして平日は会話チームが午前中2時間、美化・植栽チームは月3回リターナーのもとで活動しています。

能登川地区住民 各世帯主様

『能登川病院をよくする会』の真剣なお願ひについて

能登川病院は勤務医の確保が困難です。当直を担当する輪番医師が早退できないために、入院患者の受け入れが出来なくなっています。来る4月には緊急手術室102床で重症急患患者の治療に備えますが、肝心の医師の招聘が出来ない懸念があります。市長や病院関係者も地区関係者も地区関係者も地区関係者にも要望し続けて御座います。

◎真剣なお願ひ1つ目 身元自立病院を住民が熱い思いで取り組むよう、能登川病院をよくする会の目的を説明され参画、即ち入会されて大きな人の輪を曲間にグループ化して活動をお願いします。

◎病院をよくする会とはどのような活動をお願いしますか。
樹木・花壇の手入れ等のボランティア、入院患者に会話等を行う会話チーム、病院の受診・入院実績等の数値を示し、適当な受診チーム、会の目的に賛同できるか休職等で活動ができない医師チームで分別し、各人希望に沿って進んでいきます。別紙：会員募集要項書と入会申込書をお読みください。

◎真剣なお願ひ2つ目 能登川病院を健全に運営する上で中心となるのは勤務医の招聘が最大の要諦です。真剣なお願ひとして、2007年以上を継続した大学病院等の招聘に携わり、住民の気持ちも盛り込み、新たな組織に繋げる目的です。下記の文書を参考に各自の文章を作成して4月20日までに自治会長にお出しください。

- ①私共には感謝して休職不要を希望する人が居る。近く戻りやすいように能登川病院で働いてください。
- ②近くの間業院は時間外や休日は、頼りないので向うでも熱い時駆けつける能登川病院に勤務して欲しい。
- ③能登川町時を改めて、70年間経っている能登川病院を支えたいために、この病院で勤務してください。
- ④地元を愛し、親切で優しい人ですが多いです。お医者さんとご家族みんなで働いてください。
- ⑤書く用紙は下記を使ってください。この大きさを守って書いてください。

文例です

東近江市長 様宛
*右側の用紙を複数枚お送りください。
この間、町内の知人が腰痛で能登川病院の診断を受けMRI検査したが、1週間後に結果を説明し、まずと書かれた。
もし思い病気の治療の仕方が悪いのやめたと思えば不安な気持ちだっというて、
こんな内容、お医者様が常勤でくればはたらければいい、自分や家族の病が心配です。
大部余の病院はほかお医者様が集まるらしいが、行先の方でめんどうくさいにしてください、お願いします。

東近江市長 様宛

能登川病院への住民からの気持ちを表す文書

平成27年3月吉日

東近江地区まちづくり協議会 会長 藤原 正博
能登川病院を良くする会 会長 川南 博明

住所 _____ 氏名 _____ 年齢 _____ 才 _____

平成27年度 活動実績

会話チーム(登録16名)

月	回数	延人数
4月	22	44
5月	18	37
6月	22	44
7月	22	45
8月	19	39
9月	19	38
10月	21	42
11月	19	38
12月	19	37
1月	18	36
2月	14	29
3月	0	0
計	213	429

各日午前中の2時間、患者と応対し、回復支援に努めています。

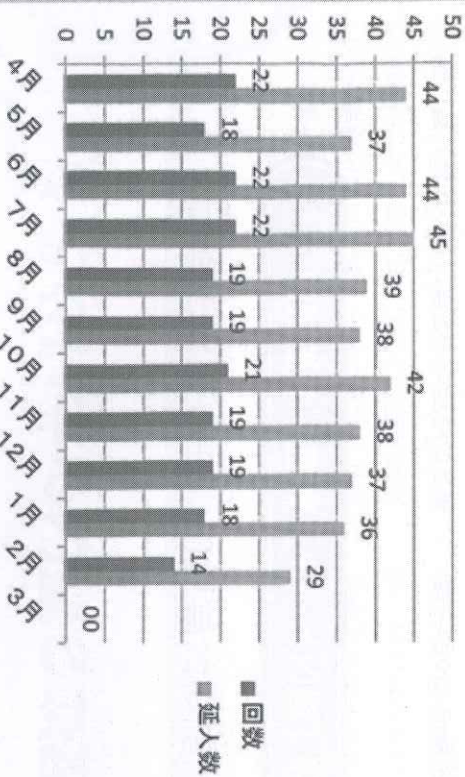
※会話チームの2~3月実績は、2/19以降インフルエンザ警報発令による自粛期間に該当。3月は22回を予定していました。

美化・植栽チーム(登録48名)

月	回数	延人数
4月	3	10
5月	3	13
6月	3	18
7月	3	12
8月	3	15
9月	3	19
10月	3	16
11月	3	13
12月	3	10
1月	2	11
2月	3	17
3月	3	17
計	35	171

毎回、9時ないし、10時から1時間程度、除草や植樹剪定、春秋には、花壇の花苗を植栽。窓ガラス拭き、冬季の施肥、駐車場の白線引きにも従事しました。

会話チーム



美化・植栽チーム

